

サンゴメンテナンスの活動報告

サンゴ返還プロジェクト 活動報告

今回のメンテナンスではサンゴ移植場所の清掃、計測、撮影を実施しました。昨年の白化現象に耐え、復活したサンゴ、残念ながら死滅してしまったサンゴがありました。



移植サンゴの計測



移植サンゴの撮影



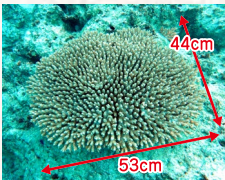
2010年に移植したウスエダミドリイシには順調な成長が見られ、現在は産卵可能な大きさとなっています。そして、今回のメンテナンスでは白色の卵を確認することができました! この個体の産卵を直接は見られませんが、一斉産卵の日に卵を産んでくれたはず! 来年も産卵してくれることを願いつつ、今後も成長を見守ります。

今回も当館で枝打ちを実施した小さいサンゴを恩納村へ輸送しました。近年は移植後の状態が良くないため岩盤に移植せず、恩納村海域の海中棚に仮置きをすることにしました。枝打したサンゴたちを自然界の環境に慣らしていき、その後岩盤に移植をしてきたいと思います。

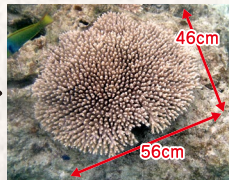


移植サンゴの成長記録

ウスエダミドリイシ

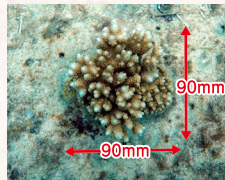


2016年12月

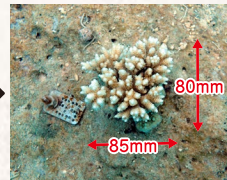


2017年6月

ハイマツミドリイシ



2016年12月



2017年6月

クシハダミドリイシ



2016年12月 → 2017年6月
残念ながら死滅してしまいました

サンゴ礁再生プロジェクト 活動報告

順調に成長するサンゴのために、
サンゴ育成場を大改革いたしました!

2014年12月からスタートしたサンゴ礁再生プロジェクト。開始当初、サンゴたちの大きさは10cm程度でしたが、すくすくと成長し、大きいものでは50cm近くまで育成しました。気づくと隣り合うサンゴ同士が接触していたり、メンテナンスを行うスペースもなくなったりしていました。ついに、サンゴ育成場大改革を実行する時が来ました! 恩納村漁業協同組合の協力のもと、ひび建ての打ち直しを実施しました。新しい育成場はサンゴ同士の間隔を0.5mから1mに広げたので、広々とした空間です。サンゴたちのさらなる成長が楽しみになりました。



改革前



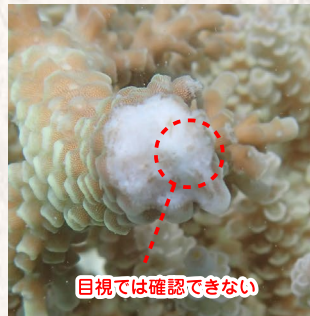
改革後

サンゴ礁再生プロジェクト 活動報告

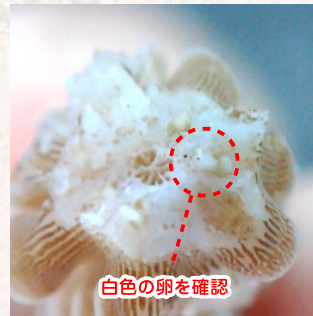
サンゴ初産卵 2017年6月11日。プロジェクトが始まって初のサンゴの産卵を確認することができました。

① サンゴの卵の成熟度をチェック

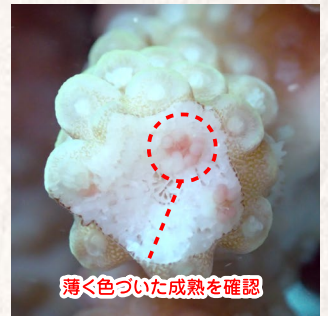
2016年12月のメンテナンスでは、サンゴの大きさが40cmを超えており、2017年度の産卵を予想していました。沖縄県恩納村では、5月または6月での産卵を予想していたため、5月から海水温の動向を見守りつつ、サンゴの成熟のチェックもしていました。サンゴの卵は骨格の内側で形成され、成熟とともに色味が変わるため、産卵時期の目安が判断できます。今回は、5月26日、6月2日、6月8日とチェックを行いました。



2017年5月26日

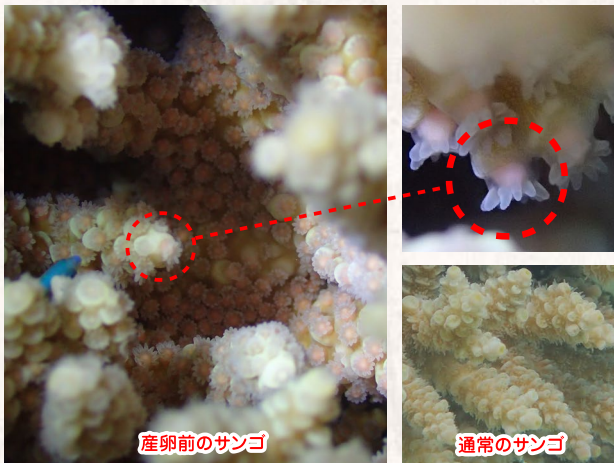


2017年6月2日



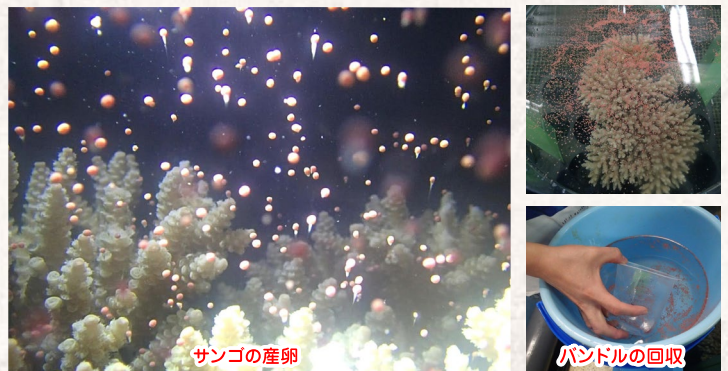
2017年6月8日

② 産卵の兆候を確認



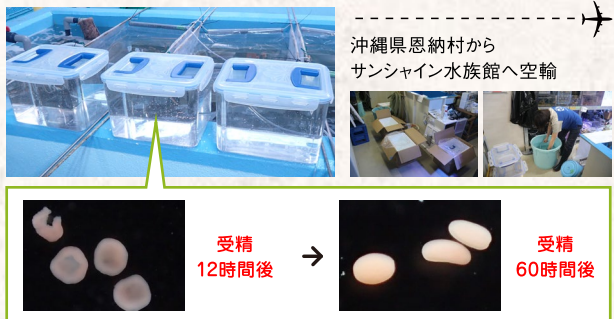
6月11日、18時ごろサンゴに変化が見られました! サンゴの卵と精子が詰まったカプセル(バンドルといいます)が、目視で確認できるようになりました。

③ ついに一斉に産卵



そして約1時間後の19時20分、サンゴの産卵が始まりました。サンゴは同じ種類で一斉に産卵することが知られていますが、今回のサンゴも用意した8群中、7群の一斉産卵を見ることができました。産卵は30分~1時間ほどで終了。感動的な光景でした。しかし、私たちにまだやる必要があります。回収したバンドルを混ぜ合わせ、卵と精子を受精させなくてはなりません。作業は21時過ぎまで続けました。

④ 卵の輸送の様子



一夜明けて、6月12日。受精したサンゴの卵は分裂を繰り返して、順調に成長していました。その後、空輸にてサンシャイン水族館へ…。

⑤ サンシャイン水族館で飼育開始



得られた卵は大切にサンシャイン水族館まで運ばれ、水槽内での飼育が始まりました。まだまだみなさんが良く知るサンゴと形は違いますが、日々少しずつ成長が見られます。